

ひびぎ



No. 10

ドラム缶工業会会報

ドラム缶の平成6年度および平成7年度上期の出荷実績について

◎平成6年度出荷実績—4年振りに対前年比増加

平成6年度のドラム缶の出荷実績は、全缶種のトンベースで333,344トンとなり、前年度比4.6%の増加で、4年振りに前年度を上回った。

缶種別にみると、表-1に示すとおり、200ℓ缶は814千本5.6%増、ペール缶は、25,539千本3.0%増となり、他の中小型缶、亜鉛鉄板缶およびステンレス缶は減少した。

◎平成7年度上期出荷実績—全体として前年比微増

平成7年度上期のドラム缶の出荷実績は、全缶種のトンベースでは、160,708トンで前年度比0.3%の微増

にとどまった。

缶種別にみると、表-1に示すとおり、200ℓ缶5,682千本およびペール缶12,510千本とともに0.5%増、亜鉛鉄板缶は4.5%増となったが、中小型缶およびステンレス缶は減少した。

平成7年度の需要見通しについて

◎平成7年度のドラム缶の需要見通し—全体として0.5%の微増

平成7年度のドラム缶の需要見通しは、全缶種のトンベースでは、335,900トン、前年度比0.5%増の見通しを策定した。

缶種別にみると、本数ベースでは、200ℓ缶12,050千本100.6%、ペール缶25,400千本99.7%、中小型缶590千本99.3%との見通しとなっている。

表-1 平成6年度・平成7年度上期缶種別・出荷実績

缶種	平成6年度			平成7年度上期		
	トン数 (単位:トン)	本数 (単位:千本)	前年度比 (%)	トン数 (単位:トン)	本数 (単位:千本)	前年同期比 (%)
200ℓ缶	280,418	11,814	105.6	134,614	5,682	100.5
ペール缶	40,752	25,539	103.0	20,071	12,510	100.5
中小型缶	7,992	1,185	88.7	3,889	598	99.4
亜鉛鉄板缶	3,703	324	95.2	1,892	159	104.5
ステンレス缶	479	26	75.2	242	10	75.3
合計	333,344	38,888	—	160,708	18,959	—
前年度比	104.6	—	—	100.3	—	—

ICDM大津国際会議の開催について

本年1月17日の兵庫県南部地震のため、延期になっておりました「国際ドラム缶製造業者連合会（ICDM）国際会議」は、1996年4月、滋賀県大津市で『ドラム缶の将来』をテーマに、下記の通り開催が決定しました。

記

“The Future of Steel Drums”

会期：1996年4月7日(日)～12日(金)

会場：大津プリンスホテル

滋賀県大津市におの浜4-7-7

議事日程(暫定)：

4月7日(日) ICDM役員会、総会

4月8日(月) 第1セッション：マーケティング関連

第2セッション：標準化および規則

4月9日(火) 第3セッション：新技術—原材料および製品

第4セッション：鋼および鋼製ドラムのイメージアップのための戦略

第5セッション：環境—鋼製ドラムの再利用、リサイクル、廃棄

4月10日(水) 第5セッション：続き

ICDM・ICDR合同会議

4月11日(木) オプショナル・ツアー（京都観光）

4月12日(金) 工場見学（オプショナル）

〔日鐵ドラム(株)大阪工場〕

鋼製ペールの現況



1. 鋼製ペール缶の生産、出荷状況

平成5年度を底に平成6年度は103.0%と増加に転じ、平成7年の上期(1~6月)は前年同期に比べ2.7%と引きつづき増加傾向にあるものの、3月をピークに下降。緩やかな回復過程を歩んでいた我国経済の景気回復の腰折れが心配されているのと軌を一にしている状況で、先ゆきが懸念される。

2. 鋼製ペールのJIS改正

工業標準化法第15条の規定により、過去3回にわたりJISが改

正され今日にいたった。

前回の改正が昭和60年(1985年)で、最近では原材料にプラスチックを使用したプラスチックペールが製造・使用されており、それとの規格を明確に区別するため、規格の名称を「鋼製ペール」と改めた。

平成3年7月から危険物の輸送について容器性能基準が規定され、この基準に適合した鋼製ペールが既に製造・使用されているので、この基準を規格に取り入れ改正を行い、平成7年1月1日から施行された。

今回の改正を機に鋼製ペールは年間2,000万缶以上生産・出荷されているので、JISの「指定商品化」を工業技術院に申請し、平成7年度には「指定商品化」が期待される。

業界としては工業標準化および表示制度の理念を理解し、更なる品質保証体制の確立のため、社内標準化、全社的品質管理などの整備に努めている。そして、この延長線上に品質管理および品質保証のための一連の国際規格であるISO9000シリーズへの対応があり、現在努力しているところである。

3. PL法(製造物責任法)について

平成5年12月国民生活審議会と法制審議会でPL制度に関する報告書がまとめられ、第129国会において



今年のプロ野球のペナントの行方は…、と年頭から騒いでいたわりには、ヤクルト、オリックスとも大差にて優勝を飾ってしまった。

オリックスの活躍は1月に発生した大震災の復興にとっても大いに喜ばしいことであったが、長嶋巨人が大補強にもかかわらず、3位に低迷したのはいただけなかった。ペナント中、一度も首位に立てず、そのままのゴールで全く本年の景気と一緒にいた。

相撲の貴乃花、ゴルフのジャンボと、

他のプロスポーツにおいては安定しているので、ここでジャイアンツの強さが本物になれば、景気の方も必然的に良くなるのではないだろうか? しかし、落合が頑張っているようではそれも難しいかな。

冗談はさておき、低迷を続けているドラム缶業界のなかでも、特に中小型缶は需要減少が激しく、全然光が見えず、大変心配だ。長嶋さん、橋本さん、来年こそは是非とも明かりを点して下さい。



製造物責任法が可決、1994年7月1日公布、今年7月1日より施行された。

無過失責任が問われる同法に、米国では連邦地方裁判所に提起される訴訟件数が毎年10,000件以上に及んでいると言われているが、充分なる対応がとられぬまま7月1日を迎えた。

PL法対策は「交通安全対策」と同様に総合対策が必要と言われており、〈ルールの確立〉〈危険排除の基本対策〉〈基本的品質を高める〉等法規遵守の確認と消費者教育、啓蒙活動、その上〈保険による救済〉等々、

品の予防安全対策への取り組みが肝要と考えている。

なお、鋼製ペールとしては「鋼製ペールの品質並びに取り扱い注意事項」を作成、各需要家の皆様にPL法対応の一方策として、お願いしている。詳細については次号で報告の予定。



平成7年（7～9月度）ドラム缶・缶種別・用途別出荷本数

単位：千本

用途		石油	化学	塗料	食料品	その他	合計	前年同期比
缶種								
200	Q 缶	458	2,044	188	29	77	2,796	100.1%
ペ	ー ル	2,924	2,742	326		183	6,175	104.7
00	Q 缶	3	35	1			39	84.8
50	Q 缶		71				71	139.2
ア	ス 缶 型	9	3				12	200.0
その他容量缶		1	169		1	1	172	81.1
亜鉛鉄板缶	200 Q		25	2	微	1	28	87.5
	その他		40	微			40	71.4
	小計		65	2	微	1	68	77.3
ステンレス缶	200 Q		2		1		3	60.0
	その他		2			微	2	40.0
	小計		4		1	微	5	50.0
合計		3,395	5,133	517	31	262	9,338	102.6
構成比		19.8	70.2	6.4	0.9	2.7	100.0	—

(注) 構成比は、ドラム缶の出荷トン数の構成比。

**DATA
FILE**



秋田ドラム工業株式会社

当社は東北・北海道地方で唯一のドラム缶メーカーです。昭和28年JIS工場の指定を受け、主として石油需要向の各種ドラム缶、アスファルト缶及びびりき板製18Q缶を製造してきました。

しかし第一次、第二次の石油危機を経過してドラム缶の需要構造が大きく変化しました。当社ではこの需要構造の変化に対応し石油以外の需要の開拓に積極的に取り組んでいます。ライン生産のオートメーション各社が取り上げない多品種少量の需要や特殊缶、溶接缶の生産等であります。近年ドラム缶の用途種類も多様化し内容物も化粧品、食品、鉄加工品、容量も20Qから220Q、型式もクローズ、オープン、複合缶など各種の容器を製造しております。またLPG配管工事、更生缶の製造販売、家庭用焼却炉の製造販売の他、LPGボンベや家庭用石油貯蔵タンクなどの販売も取り扱っております。



川鉄コンテナ株式会社

私たちの社名にもなっている「コンテナ」、それは「容器」を意味する英語です。

ドラム缶に代表されるスチール容器からプラスチック容器まで、産業用容器の総合メーカーとしてさまざまな製品をおとどけています。

平成7年3月10日に大阪証券取引所市場第二部に、株式を上場いたしました。

これからも時代のニーズに応えた、よりクリーンで、より安全性にすぐれた容器をおとどけるために、私たちはつねに新しい素材や技術の開発を積極的におすす、産業用容器の最先端をリードしてあすの産業と暮らしを支えていきます。

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

ADK 秋田ドラム工業株式会社

秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105



川鉄コンテナ株式会社

大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711



協和容器株式会社

新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371



鋼管ドラム株式会社

東京都中央区銀座8-11-11 ☎ 03-3574-0711



斎藤ドラム缶工業株式会社

横浜市鶴見区生麦3-15-14 ☎ 045-521-3881



山陽ドラム缶工業株式会社

岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680



新邦工業株式会社

東京都千代田区神田佐久間町3-27-3 ☎ 03-3861-5285



ダイカン株式会社

大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601



大同鉄器株式会社

尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468



株式会社東京ドラム罐製作所

東京都葛飾区東四ツ木2-23-18 ☎ 03-3695-8511



東邦シートフレーム株式会社

東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212



株式会社長尾製缶所

和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591



日鐵ドラム株式會

東京都江東区亀戸1-5-7 ☎ 03-5627-2311



株式会社前田製作所

東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101



森島金属工業株式会社

千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 043-498-3551



株式会社山本工作所

北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431



株式会社ユニコン

大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.10(平成7年11月15日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 柴野 正裕

本誌は再生紙を使用しています。